



## 糖尿病の3大合併症の共通点とは



糖尿病といえば血糖が高くなってしま病気なのですが、大げさに言えば、人間は血糖が多少高いだけでは（500mg/dLを超えるほど高い場合は別です）たいして困りません。糖尿病は血糖よりも、その合併症が厄介なので結局血糖をコントロールしましょうと言っているのです。

3大合併症とは、以下のものを指します。

- 神経症：手足がじんじんびりびり痺れたり、温度の知覚が悪くなったり、自律神経障害のため便秘になったりする
- 網膜症：眼の網膜出血のため、突然視力をなくす
- 腎症：腎臓の血液をろ過して老廃物を尿として捨てる機能が低下する  
日本の透析患者さんの原因疾患の第一位は糖尿病です

これらの合併症は一見何の関連もないように見えますが、はっきりした共通点があります。それはどの組織でも毛細血管のように細い動脈が重要な役割を持っていることです。神経では、その繊維が長いものの末端を栄養している動脈が非常に細く、眼の網膜もここに来ている動脈は非常に細いものです。

腎臓に至っては、腎臓に入った動脈（腎動脈：これは太い）はどんどん枝分かれをし、最後に毛細血管ほどの太さの動脈が糸玉のような組織（糸球体）を多数（100万個）鈴なりに作り、そこで血液をろ過し原尿を生成しています。

血糖が高いと、これ等ごく細い動脈に動脈硬化を起しやすくなり、神経には栄養がいきわたらなくなって機能障害を起し、網膜では出血をしてそれがものを見る焦点となる黄斑にかかってしまうと視力低下を起し、腎臓に至っては、血液をろ過することができなくなり腎機能低下を引き起こします。

動脈硬化ですので一度なってしまうと元に戻すのが難しく、しかもなってしまうまで何の痛みも不便も感じません。糖尿病治療を納得して受け入れていただく難しさです。

しかし微小な血管に起った動脈硬化は、やがて大血管にも起こっていくことは想像していただけたと思います。

狭心症や心筋梗塞、脳梗塞のリスクといわれる所以です。

平成30年9月17日  
並木充夫・加藤由紀子